

「ベレアでの宣教」

2016年07月15日

使徒言行録 17 章 10 節～15 節。兄弟たちは、直ちに夜のうちにパウロとシラスをベレアへ送り出した。二人はそこへ到着すると、ユダヤ人の会堂に入った。ここのユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりでかどうか、毎日、聖書を調べていた。そこで、そのうちの多くの人が信じ、ギリシア人の上流婦人や男たちも少なからず信仰に入った。ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、ベレアでもパウロによって神の言葉が宣べ伝えられていることを知ると、そこへも押しかけて来て、群衆を扇動し騒がせた。それで、兄弟たちは直ちにパウロを送り出して、海岸の地方へ行かせたが、シラスとテモテはベレアに残った。パウロに付き添った人々は、彼をアテネまで連れて行った。そしてできるだけ早く来るようにという、シラスとテモテに対するパウロの指示を受けて帰って行った。

パウロとシラスはテサロニケ教会を生み出すことができた。しかし、ユダヤ人たちは、町民を煽動し、主イエスを王とする、許されない宣伝をしたと吹聴し暴動になった。二人の身に危険が迫っていることを知ったテサロニケの信者たちは、急遽、夜のうちにベレアに送り出した。二人はベレアに来ると、いつものように、ユダヤ人の会堂で主イエスの福音を語った。ベレアのユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、その御言葉が真実であるか、毎日、聖書を調べていた。そして、多くのユダヤ人が信じ、また、ギリシア人の上流婦人や男たちも少なからず信仰に入った。異邦人をクリスチャンに導き、ベレアでの宣教は大きな実りを得た。

ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、ベレアでもパウロたちが神の言葉を宣べ伝えていることを伝え聞くと、押しかけて来て、群衆を扇動し、宣教を妨害した。ベレアはテサロニケから 75 km ほど離れているが、ここまで、追いかけて来て、妨害したのである。古代人にとって、宗教は自分のアイデンティティそのものであった。ユダヤ教徒たちは、パウロとシラスが語ることはユダヤ教に反し、自分たちの宗教が壊されると思った。二人の宣教を阻むことが、ユダヤ教を守ることだと疑わなかったのである。

二人の身を案じた、ベレアでクリスチャンになった信者たちは、まずパウロを送り出し、海岸まで行かせた。シラスと途中から同行したテモテはベレアに残った。

パウロに付き添った信者たちは、アテネまで連れて行った。アテネまでは 350 km ほどある。おそらく船でアテネに行ったのであろう。パウロは付き添った信者たちに、シラスとテモテにできるだけ早くアテネに来るように指示して、彼らをベレアに帰した。

パウロはまずユダヤ人の会堂に行って宣教した。彼は、ユダヤ人は神の選民であると信じ、その選民のユダヤ人に対し、主イエスの十字架と復活による罪の赦しと神の命に与る救いの福音が啓示されたと確信していた。一方、ユダヤ人はこの世で幸いを得ることが神の祝福であると信じていたので、十字架で殺された敗北者イエスを主キリストと信じることは到底受け入れることはできない。両者の信仰には隔たりがあった。それにもかかわらず、パウロはユダヤ人を宣教の対象とした。ローマ書 9 章 3 節に「わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています」と、誰よりも先に、同胞ユダヤ人に福音を伝えたかったのである。ユダヤ教徒から迫害を受けるが、異邦人に受け入れられる道が開かれていく。